

3学年 学年だより



令和5年4月21日
大和市立つきみ野中学校
第3号

授業参観・保護者会

ありがとうございました

授業参観及び保護者会にご参加いただきました保護者の皆様、お忙しい中ありがとうございました。各担任の授業をご覧いただいた後、体育館で行った保護者会では、修学旅行や進路の話が中心となりました。参加できなかった保護者の皆様には、本日第3学年保護者会資料冊子、進路保護者会資料冊子、修学旅行関係の書類3点をお渡ししましたので、分からないことやご心配なことがあれば学校にご連絡ください。



↑ 授業参観の様子 左上1組から順に右下9組

第1号の3学年職員写真の中で全員が指さしていたものは生徒が1年次に決めたスローガン

『輝石〜かがやかせていこう〜326+2+1原石』
でした。2年間、南棟の昇降口に掲示してありましたが、北棟3Fの階段に移設しました。



作文紹介 Part1 今回は1~4組です♪

『3年生』

1組

ついに最高学年。教室には仲のいい友達がいるまでは良かったのだが、教室にサングラスをかけている夜に現れたら確実にびびる怖い人がいた。だが、怖い人はしゃべると面白い人だとわかった。岩村級の人たちはとても話しやすい人ばかりで、みんなと仲良くできると思う。3年生になった僕には「提出物をしっかり出せるようになる」という目標がある。だが、この作文は提出期限を2日も過ぎていた。

この作文を提出するときに岩村先生に睨まれるのであろう。次の日の朝、学校に行く準備をし、覚悟を決めて家を出た。ああなぜ学校があるのだろう。



『3年生になって』

2組

4月6日、私たちは3年生になりました。といっても2年生の時と同じように友達と学校に来て、クラスで時間を過ごし、部活をする、という毎日が続いているので、まだ全然実感がわきません。自分のことを「2年生」と言ってしまったり、まだまだ抜けない2年生モードですが、そろそろ気を引き締めなくてはならないな、と思っています。「2年生だから…」と通用していたことは、3年生では通用しなくなります。最高学年として後輩にかっこいい背中を見せるにはどうしたらいいのかいろいろ考えてみたところ、「すべてのことにかむしゃらに取り組む」ということにたどりつきました。去年の3年生の先輩を思い出してみると、部活での最後の大会のとき、全員が揃えないながらも、一人ひとりが全力ですべての力を出し切っていました。運動会では、色をこえてみんなが大きな声で応援していました。受

験の後は笑顔で合格発表をしに来てくれました。このような姿は先輩たちが何事にも努力を惜しまず、全力で取り組んだ証拠だと思います。私も、部活にも勉強にも全力でがむしゃらに取り組み、悔いの残らない最高の1年にしようと思います。



『3年生になって』

3組

これから中学校生活最後の1年に入るにあたって、がんばりたいこと、意識したいことがあります。

一つ目は、学習面で毎日の積み重ねを大切にすることです。三年生になると、進路が関わります。入試前に一年生からの復習をいきなりやったとしても、すべては覚えられません。しかし、日頃から復習予習を行うことで、一つ一つ覚えていくことができます。だから、今年は一学期から気をぬかず、日々、一生懸命に勉強にはげんでいきたいです。二つ目は、生活面での周りへの気配りを行うことです。いいクラスを作るためには、周りとのチームワークを深めることが大切です。困っている人、悩んでいる人がいれば、声をかけ、クラスメイト全員が気持ちよく学校生活を送れるように、周りへの気配りを大切にしていきたいです。

五月には修学旅行があります。その大イベントでクラスの仲を深めるために意識したいことがあります。まず、メリハリをつけて行動することです。先生が話している時には、しっかり耳をかたむける、班別行動の際は思いっきり楽しむなどすれば、メリハリがつくと思います。また、その場所の自然を感じることです。京都・奈良にはたくさんの自然があります。そのような場所で、心をおちつかせることで、新しい気持ちになることができるからです。

このように、三年生では一生懸命に何事も取り組み、中学生最後のラストスパートを切りたいと思います。





『3年生になって』

4組

4月6日、登校初日、僕は未だにこれから最高学年になる実感が湧かなかった。「学校の顔」だとか、「みんなのお手本」といったものになれる自信がなかったのだ。

クラス発表の紙が配られ、教室に向かうにつれ、僕の気持ちは段々と前向きなものへと切り替わっていった。3年生になるからとって特別になにかがかわるわけでもないし、気負いすぎるのもよくないな、と思ったのだ。

これから、最高学年にふさわしい振る舞いを求められる機会も増えてくると思う。その中で成長して慣れていけばいいのかな、と思った。幸い、部活や行事で卒業生の先輩方と接することもあった。その経験を糧にして、僕も先輩方のようななにかいい背中を、後輩たちに見せられるような頼れる先輩を目指して頑張ろうと思う。

